

全百科
漁獵篇

下

國立第一師範學校
(學校圖書)

分類	號
卷	門
冊	部
冊	部
冊	部
冊	部
冊	部
冊	部

31A1
46
N83

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 6 6 0 4 a

福岡教育大学蔵書

百科全書

魚類ノ總論

魚類ノ總論

錦織精之進 譯

方今英國ニ於テ屋宇ヲ照シ街衢ヲ輝ヤカスニ
 總テ瓦斯ヲ用井ルニ因リ大ニ油ノ用ヲ減ズレ
 且海獸或ハ魚類ノ油ニ至リテハ尚世人ノ需求
 ヲ絶セズ蓋英國ハ他邦ヨリグリレンランド鯨
 スベルシウール鯨其他數種ノ輸入ヲ受クルコ
 頗多ケレバ其油ニ乏シカラズ又鯨魚ハ食用ニ

百科全書

魚類ノ總論

下

供スルモノナレバ其肝臟ヨリ取ル所ノ油ハ藥
品ニ用井テ效アルヲ瞭然タリ浮鼈ウツクサ或ハ曝背ウツクサセ
ル沙魚カハ其肝臟ニ油アルヲ以テ人ニ貴バル殊
ニ海豹ハ大ニ其油ヲ生ズルノミナラズ其皮モ
亦有用ナルヲ以テ其直廉ナラズ

鯨魚ノ事

鯨魚ノ下ヲ載スル書ハ世ニ頗多シト雖大抵牽
強附會ノ説ニシテ實ニ分明ナラザルガ故ニ信
用スルニ足ラズ有名ノ博物學者ト雖鯨魚ノ事
ヲ論ズルニ至リテハ錯見誤解ニ出リ多ク博

物學者某氏ノ言ノ如ク鯨魚ノ事ヲ詳明スルハ
學術ノ及ビ難キ所ナレバ姑措テ後世ニ譲ルニ
若カスト豈宜ナラズヤドクトル、スコルスバイ
ノ説ニ動物學上ニ論ズル諸物ハ其種類甚多ク
シテ或ハ子解シ難キ者アレバ鯨魚ノ論ノ如ク
曖昧タルモノナシ鯨魚ノ事ヲ以テ書ニ著ハス
モノアレバ現ニ生鯨ヲ視テ其發明ヲ述ベタル
者ハ僅ニ屈指シテ計フベシ就中グリドンラン
下鯨ノ下ヲ記セルスコルスバイ氏或ハスベル
ンウール鯨ノ下ヲ著ハセルベール及メン子ト

等ヲ以テ巨擘トス世ニ鯨魚ノ一ニ就キ略正論ニ庶キ者ヲ得ルハ偏ニ此等ノ記者ニ頼レリ鯨魚ノ体ハ一種無類ノモノナリ故ニ人或ハ之ヲ論ジテ水産ト陸産トノ間ニ居ル所ノ動物トス何トナレバ其海中ニ在リテ随意ニ游泳スルヲ見レバ水産ナルト固ヨリ論ヲ俟タズト雖其体ニ乳房アリテ其子ヲ養ナフニ乳ヲ以テ且其血液ノ温暖ニシテ空氣ヲ呼吸スルヲ視レバ陸産ニ屬スルト為ルモ亦其理ナキニ非ズ此等ノ議論ハ專動物學上ニ關スルトナレバ姑ク措

テ論ゼズ然レ其又民ノ用ニ供シテ裨益アルニ至リテハ爰ニ述ベザル可カラズ元來鯨魚ハ種類多クシテ一ヲダグリトランドト云ヒニラダレイト、ロルクールト云ヒ三ヲカチャロト一名スベルム、ウールト云ヒ四ヲナルウエルト云フ其他許多ノ種類アレハ今爰ニ專論スル所ハダグリトランドスベルム、ウールニ種ノ事ニ關セリ此等ノ一ヲ了知スルハ其餘ノ諸種モ亦推知スベシ然レ其体ノ長ニ至リテハ大ニ異同ナキヲ得ズ其小ナルモノハ大鯨魚ト略ニシテ

大ナル者ハ百「フ」トニ下ラズ其重量ニ至リテハ幾噸ノ多キニ當ルヲ知ラズ
クリーランド鯨ハ或人ノ説ニ其長通例百六十「フ」トニ下ラズト世人一時ハ之ヲ信スレド此説固ヨリ過甚ナレバトクトルスコルスバイ之ヲ辨駁センガ為ニ新聞紙ニ已レノ實説ヲ載セテ曰クグリーランド鯨ト雖其長七十「フ」トニ超ユル者ナク而メ平常捕ル所ノモノハ大抵其長六十「フ」ト以下トス余嘗テ漁人ニ就テ其捕ル所ノ鯨魚ヲ視ルニ三百二十二尾ノ内一テ

五十八「フ」トノ長ニ超ユル者ナシ其時漁人余ニ語りテ從來捕ル所ノ鯨魚中其最大ナル者モ六十七「フ」トニ過ギズト云フ蓋此言ノ如キハ真ニ然ラント元來大鯨ハ其腹ノ周圍三十「フ」ト乃至四十「フ」トニシテ就中稍頭ヲ下ル部分ヲ以テ最大トス而メ其頭ノ大ナルヲ全体ヲ三分シテ其一ヲ有ス其脊上ニハ鰭ナゲニ其胸ノ部分ニテ口際ヲ下ルニ「フ」トノ邊ニエ葉ノ鰭アリ其幅五「フ」ト餘ニシテ其長九「フ」トニ下ラズ其尾ハ新月形ニシテ其幅二十四「フ」ト

ナリ而ノ游泳スル片ハ横ニ水ヲ絶シテ其力ノ
強キヲ實ニ驚クマシ漢艇ノ如キハ一度其尾ニ
觸ルレバ忽破裂シテ高ク飛散ス其体部大半ハ
剪紙ノ如ク黒色ヲ帯フレ其頭ノ下部ト下腹
トハ白色ナリ尾部ニ至リテハ半ハ白色ニシテ
半ハ黄色ノ斑点ヲ錯フル灰色ナリ其眼ハ口際
ヲ下ル一フートノ所ニ在リテ其形牛眼ヨリ
稍大ナリ其虹彩ハ白色ニシテ臉ヲ以テ蓋トス
此四足ノ獸ト異ナラス又其頭部ノ頂上ニ二孔
アリ其深一フートニシテ氣管ノ上端ニ達セリ

鯨魚ノ口ハ甚大ニシテ全ク開ク片ハ其長十六
フート其高十二フート其幅十フートノ
尺度ニ當ルヘシ然レ口中ニ齒牙ナクシテ且其
咽喉甚々狭小ナルガ故ニ牛ノ吞ムマキ食物モ
之ヲ食スルヲ能ハズ至大ノ鯨魚ト雖モ其咽喉
ノ直徑ハ一「インチ」半ニ過キズ斯ノ如ク食道
狭小ナレバ假令巨口ヲ開キテ大ニ餌食ヲ貪ラ
ントスルノ勢アリトモ其食スルモノハ極メテ
微量ナルベシ但ニ常ニ餌食ト為ル者ハ水底ニ
接シテ游行セル小魚ニシテ之ヲ吞マンガ為ニ

其口邊ニ一種ノ器具アリハレイント稱スル者
 ヨリ成リテ商賈ノ所謂鯨鬚是ナリハレイントハ
 上頤ノ中央ヨリ出テ薄板ノ如キモノニシテ其
 ロノ兩側ニ列ス其數一側ニ三百餘アリ人之ヲ
 取リテ太陽ニ曝セバハレイントノ重量一噸ニ
 當ルヘシ而メ其最長キ者ハ常ニ各側ノ中央ニ
 在リテ其長十二フート三インチニ下ラスハレ
 イントノ質ハ彈カ強クシテ其端縫縷ノ如ク錯綜
 セルガ故ニ其口邊ニ游行スル小魚ヲ捕ルト網
 羅ニ異ナラズ然レモ其舌ノ如キハ下頤ニ屬ス

ル所ノ脂塊ニ過キマシテ其用甚寡ノキガ故
 ハレイントノ端若縫縷ノ如クナラザルハ小魚
 ヲ取リテ吞ムト能ハス何トナレバ小魚ト共ニ
 其ロニ流入スル水ヲ排出スルハ小魚モ亦道
 去スレバナリ其端縫縷ノ如クナルヲ以テ小鯨
 小鯨メジシハ魚マロシ魚シース子ハ魚等ノ
 如キ小魚ト雖其端ニ掛リテ遂ニ吞ムトヲ得ベ
 シ
 鯨皮ハ三層アリ其表層ニハ臙油ヲ含ノル流質
 物アルガ故ニ水氣ノ其体ニ感通スル患ナク其

百斗全書
 魚鱗書
 六
 八
 八
 八

中層ハレートマコス[△]皮ト稱スル者ニシテ全
体ヲ滌メテ黒クスル所ノ色料ヲ含^ミ其裏層ニ
至リテハ直ニ皮名ヲ下スベシト雖其分子ノ其
疎ナルヲ以テ大ニ油ヲ含^ムリ而^{シテ}其厚キ^ト一
フ^ト乃至ニフ^トニシテ其重量三十噸餘ニ
當ル^トアリ其質ハ全体ノ溫度ヲ護スルノ力甚
多ク加フルニ洋中深處ニ移行スル片ハ水其体
ヲ壓スル^ト實ニ強シト雖能^ク之ニ堪^フ蓋^{シテ}鯨魚
ハ全体ニ油ヲ含蓄スルヲ以テ自^ラ其体ヲ浮^{バシ}
△是油ノ重量ヲ以テ水ニ比スレハ稍輕キ力故

ナリ此裡皮ニ次グモノハ筋肉ノ部ニシテ其色
赤ク其味牛肉ノ粗ナルモノニ異ナラス而^{シテ}其
尾ヲ除クノ外ハ其分子ノ組成諸筋ノ造構及^テ獸
骨ニ至ルマデ都テ四足獸ニ鬚鬣タリ其鱗ハ人
ノ手臂ノ如クニシテ其胸ハ四足獸ニ類似セリ
グレイトロルク^ラ鯨^ト見^ル一^ノ脊骨ハ其數六十三
部ヨリ成レ^ルグレ^ーリン^ト鯨^ハ之ニ比スレ
バ其數甚寡ナク而^{シテ}其項骨ハクラウン^{ボーン}
骨ヨリ成リ面部ノ諸骨并ニ上頤等ハ皆此^クラ
ウン^{ボーン}ヲ以テ其根トナス又下頤ニハ二骨

アリ其形弓ノ如クニシテ且長シ其相接合スル
所ハ口ノ前部ニアリ此等ノ骨ハ都テ其質堅ク
シテ氣孔多ク而ノ大ニ美油ヲ生スレニ髓ヲ含
ムモノ一モ之ナシ
鯨魚ノ体ニ備フル所ノ呼吸器ハ其構造大畧陸
獸ノ如クナレドモ常ニ水中ニ住スルヲ以テ稍
差異ナキヲ得ズ蓋其呼吸スル片水ノ肺臟ニ入
ルヲ防ガシニハ預之カ備ヲ為ザル可カラズ故
ニ氣管ノ上端ヲ開キテ鼻孔ヲ頭頂ノ凹穴ト相
通ゼシム斯ノ如クセバ満口水ヲ含ムト雖モ空氣

ヲ吸入スルヲ得ベシ空氣ヲ吸入スレバ其血液
ニ酸素ヲ與ヘテ其色ヲ赤カラシメ而ノ其溫氣
ヲ醸スハ陸獸ト異ナルトナシ鯨魚空氣ヲ吸入
セシガ為ニ屢水面ニ游ブトアレニ其氣管ノ上
端ヲ開クノミニテ多量ノ空氣ヲ得ルニ足ル其
血液ノ多量ナルト腦ノ大ナルトハカザイル氏
ノ説ニ由リテ明瞭ナレニ其神經ノ組成ニ至リ
テハ更ニ了解シ難シ又其視官ハ頗銳敏ナレニ
其頭部ニ聽官アリヤ否ハ辨明スルト能ハズ其
鼻官ハ頭頂ノ凹中ニ在リトスレニ是亦深ク信

ズルニ足ラズ何トナレバ水手ノ傳説ニ香氣アル物ヲ取りテ船中ヨリ鯨頭ニ投ズルキハ鯨魚忽其邊ヲ轉去スト云ヘリ又二箇ノ乳房アルハ諸鯨皆同シケレバ其位置ニ至リテハ或ハ下腹ニ属スルモノアリ或ハ胸部ニアルモノアリテ一定ナラズ而メ其乳味ハ極メテ甘クシテ最貴ブベキ者ナリト云フ
カチヤロツト鯨一名スベルム、ウール鯨トグリーンラント鯨ヲ辨別スベキ所ハバレーン上見ユクノ有無一管スルノミナラズグリーンラント鯨ニ比

スレバ其体甚大ニシテ其長七十フート乃至八十フートニ當ルモノ屢漁人ノ捕ル所ナリ就中最大ナル者ニ至リテハ其長九十フート乃至一百フートニ當ルモノ往々之アリ此等ノ鯨中ニテ或ハ二鰭ヲ有スルモノアリ或ハ三鰭ヲ具フルモノアリ或ハ平齒ヲ有スルモノアリ又鋭齒ヲ備フル者アリ或ハ噴水管噴水管ハ上ニ送ブルノ位置頸ニアル者アリ又鼻ニアルモノアリ其脊ノ如キハ黒色ノ者アリ藍色ノ者アリ灰色ノ者アリ或ハ黒藍ヲ雜フル者アリ或ハ藍灰ヲ合

百科全一 卷之十一
スル者アリ其頭ニ至リテハ大抵巨大ニシテ全
体三分ノ一ナリ故ニ其頭ノ前部ハ宛然峻シキ
海角ニ似タリ噴水管ノ上部ニ當リテ稍一方ニ
傾キタル一凹アリ是_ミ生來其体ニ稟得タル不具
ナレバ己ムフ得スト雖其同種類相聞ヒテ傷
害ヲ蒙ルノ多キハ何ゾヤ其眼ハ不同ニシテ一
眼ハ大抵視覺ノ用ヲナス其脊ハ一般ニ藍灰
ノ二色ヲ混ジテ其胸部ハ白色ヲ帶フ脊鱗ハ其
數一二ニ過キヌシテ其形小ナレバ大瘤アリ其
腋鱗モ亦小ナリ其尾ニ至リテハ怖ル可キ強力

ノ有ス齒數ハ通例四十二以上ニシテ其位置上
顯ノ凹處ニアリ其咽喉ハ廣濶ニシテ人ヲ吞ム
ニ足ル而メ常ニ烏賊ヲ以テ餌食トスレバ粒々
大魚ヲ食フコトアリ
「スマルム、ウール」鯨ノ頭ハ人ノ用ニ供シテ其裨
益甚多シ其頂骨ノ内部ニハ大凹アリテ其中ニ
夥シク美油ヲ含ミ其油冷氣ニ觸ル、_キハ忽チ凝
結シテ塊ト為ル是_レ即商賈ノ好謂鯨頭油ナリ又
脊骨ヲ傳ヒテ其内部ニ同質ノ油アリ其腸囊ノ
如キハ又一種ノ珍品ヲ生ス即_チ龍涎香ニシテ俗

ニ鯨糞ト稱スルモノナリ蓋スベルム、ウー、ル鯨
ノ捕ルノ目的ハ專此等ノ品ヲ得ンガ為ニシテ
其脂膏ノ為ニ非ス此鯨種カリー、ンラン、ド鯨ニ
比ズレバ脂膏ノ量甚少ナシト雖其品質ニ至リ
テハ頗貴ブベキモノニシテ鯨油ヲ取ルコト多シ
トス此鯨海中ニ在リテ水ヲ吹キ揚グルルハニ
三里ノ遠キヲ隔ソト雖其噴水ヲ見ルベシ其景
状黒雲ノ水中ニ生シ或ハ深林ノ水面ニ現出ス
ルガ如シ但一吹ト一吹トノ間必ス十ニ一トヲ
經ル斯ノ如ク水ヲ吹キ揚ゲテ空氣ヲ吸ハスル

一六七十度ニ至レバ血液酸素ト抱合スルヲ以
テ一時間許ハ水面ヲ下リテ深所ニアルモ其生
ヲ養ナフニ足ル又一時間許ヲ過クレハ再水面
ニ浮ブ而シテ其浮沈ノ時間ハ通常定限アレド同
種相闘フ片ハ此例ニアラススペルン、ウー、ルノ
性ハ能ク人ニ闘ル、モノナレド互ニ同種ヲ嫌
フコト最甚シ故ニ牡鯨牝鯨ノ一群ニ伴ヒ游行ス
ル片ニ方リ他ノ牡鯨此群ニ入ラントスレハ牡
鯨互ニ命ヲ賭シテ争闘スルニ至ル然レド漁人
等銳鋸ヲ以テ其體ヲ刺セバ間水面ニ轉旋スレ

凡漁人ニ暴觸セサルヲ以テ之ヲ殺ス_レ甚容易ナリ
漁人ノ諺ニ牡鯨ハ師ニシテ牝鯨ノ一群ハ弟ナリト云ヘリ蓋牝鯨ノ長ハ牡鯨ニ比スレハ四分ノ一ヲ減ス其互ニ厚情ヲ盡シ且其子ヲ慈愛スルハグリーンランド鯨ニ異ナラス故ニ精巧ノ漁法ヲ用井ル片ハ盡其一群ヲ捕ルヲ得ベシ何トナレバ其同群ニ傷害ヲ蒙ル者アレハ之ヲ視テ去ルニ忍ビザルヲ以テナリ
鯨魚ノ種類如何ヲ論セス之ヲ捕ルノ方法ハ通例銳鋤ヲ用井タリ近世ニ至リテ種々ノ新法ヲ

如ク鯨魚ノ糞ナリ夫南海ニ用井ル鯨漁船ハ四百噸餘ノ荷物ヲ積ムニ足ルモノニシテ網具ノ装置能ク其所ヲ得ルヲ以テ其航行スルノ極メテ捷快ナリ故ニ其船ニ乗ル者ハ老練精熟ノ漁人ニシテ各鯨獵ノ利ヲ令配セリ而メ其巡海スルノ間ハ通例三年乃至四年ヲ以テ定限トス其漁船ノ外形ハグリーンランド鯨ノ漁船トハ大ニ異ナリ蓋此船ハ鯨魚ヲ捕フレバ直ニ其油ヲ得ンガ爲ニツライボットト稱スル蓋及大籠ヲ備フルヲ以テナリ其乗船人数ハ三十名乃至四十

名ニシテ其内船長副船長外科醫^手其他種々ノ職務ヲ司トル者アリ故ニ乗船人數ノ健康ヲ害スルナカラシムヲ欲シ船中ニ種々ノ規則ヲ設ケカヲ極メテ常ニ掃除ス此漁船ニ附属スル小艇五隻アリテ其中ニ漁用ノ諸具ヲ置クト雖就中鯨索ヲ以テ第一要具トス此索ハマニラ島産ノ細麻ヲ以テ編成セル者ニシテ其^ニ線一^インチヲ三令シテ其ニニ居ルヘルメンメルウルト云ヘル者鯨索ヲ查見シテ曰ク此索ノ長ハ通例ニ百^フアリムニ下ラズ艇軸ニ接シテ大桶ヲ置

キ其中ニ此索ヲ捲キ入レテ其形中心ヲ四クシタル螺旋ノ如クナラシムルヲ要ス何トナレバ之ヲ捲ク片ニ^ニ聊^ニ纏結スレバ之ヲ引キ出スニ當リテ必ス其人ノ手足或ハ全体ノ向フ所ヲ誤ラシムルヲ以テナリ故ニ之ヲ捲ク片ハ最^ニ注意セザル可カラズ但^ニ捲キ始メテヨリ之ヲ終ルマデハ其間必^ニ徹^ニ朝^ニ夜^ニ十二^ニ字^ニヨリニ至ルマシ而メ其捲索ノ方法ハ高ク索ヲ引キ揚グ滑車ヲ歷テ後桶中ニ下ラシムルト雖^ニ或ハ^ニ扭^ニ振^ニシ^ニ或ハ^ニ歪^ニ邪^ニナル片ハ復之ヲ引キ揚グ其條理ヲ正シクメ再^ニ之

下ノ下ノ下
魚載第下
志
ノ下ノ下

ヲ下スベシ甚々タル太平洋ハスベルムウエール
ニ富メル地位ナレバ漁人之ヲ捕ヘンガ為ニ茲
ニ漁艇ヲ止メテ能ク其近邊ヲ窺ヒ鯨魚ノ有無
ヲ辨ス夫スベルムウエールノ質ハ常ニ狐疑スル
ト甚シ故ニ其体ニ接近シテ鋭鋸ヲ投スル時ハ
必ズ欲ク顧慮スルト緊要ナルベシ蓋此鯨ハ水面
ヨリ大鯨ノ突出セルガ如ク高ク其頭ヲ擧ゲテ
其近傍ヲ顧ルト屢之アレバナリ若其近傍ニ於
テ常ニ已ノ馴レザル物体ヲ漁艇等ヲ視ルハ密
ニ其同類ニ之ヲ報告ス其告法ハ人智ヲ以テ推

究シ難シミストルベールノ説ニスベルムウエール
ハ四里乃至七里ノ距離ト雖忽其同類ニ信号
ヲ傳フト云フ然レモ信号ヲ傳フルニハ聲響ヲ
以テスルニアラス何トナレバ鯨魚唯水面ニ浮
ブ片ノミ呼吸シテ吼聲ヲ發スレモ水中ニ於テ
ハ一聲モ發スルトナケレバナリ右ノ奇質ヲ備
フルハスベルムウエールノミナレモ餘ノ性質ニ
至リテハダリーンフンド鯨ニ異ナルトナシ譬
ハバ此鯨モ亦高ク水面ニ躍ルガ如シ漁人其事
ヲ稱シテ鯨魚穴ヲ穿ツト云フ蓋鯨魚ノ斯ノ如

クスル所以ハ種々ノ魚類或ハ介蟲ノ其体ニ宿
リテ其乳ヲ啜ラント欲スルヲ避ケンガ為ナリ
然レモ漁人ノ此鯨ヲ捕ルマデハ其体ヲ離ル
コナシ抑スルム、ウエールヲ捕ルニ當リテハ其
漁船ノ櫓頭ニ展眸人ヲ置キ以テ其有無ヲ窺ハ
シ、但、其櫓頭ニハグリーンランド鯨漁船ノ如
ク鳥巢ノ如キモノヲ設ゲズ只一ノ横木ヲ備フ
ルノミ而展眸人此ニ登リテ鯨魚ノ水ヲ噴出ス
ルヲ視テ(彼)方向ニ鯨魚アリト報告スレバ漁人
直ニ奮發シテ船舷ヨリ小艇ヲ卸シ各其所ヲ占

メテ鯨魚ノ未、水面ヲ下ラザルニ及バントカヲ
極メテ迅速ニ其艇ヲ漕ギ既ニ其近キニ達スレ
バ船長(止)メテ鋭銚ヲ刺セヨト令ス乃、銚手ハ捷
ヲ措キ鋭銚ヲ執リテ高ク之ヲ揚ゲ能ク其鯨体
ヲ狙ヒ之ヲ投ジテ放置ス此時ニ當リ船長(艇)舳
ノ諸人ヨト令ス乃、傷鯨ノ近邊ヲ避ケンガ為ニ
直ニ其艇ヲ後ニ漕ギ而、急速ニ船舷ヨリ鯨索
ヲ引出シ終リテ後其艇ハ傷鯨ニ投カレテ水面
ヲ飛走ス但、索ノ一端ハ艇ニアリテ一端ハ鯨体
ニ刺シタル銚ニ固結セリ故ニ傷鯨ノ行クニ從

ヒ艇モ亦旋轉ス漁人ノ體ニ艇ノ鯨鼻ニ接ヒテ
飛ブ片ハ其疾キト茫々タル太平洋大西洋モ一
瞬間ニ行キ盡スト其疾ク進行スルヲ以テ考フ
レバ此鄙諺モ亦厯ナラズ然レド其索遂ニ緩垂
シテ艇モ亦進行セザルニ至レバ漁人等其索ヲ
拽キテ傷鯨ニ接近シ其戰慄セル體ニ幾次力鋭
鉅ヲ刺シ或ハ艇ヲ曲ゲテ其右ヨリシ或ハ左ヨ
リシ或ハ頭ヨリシ或ハ尾ヨリス斯ノ如ク傷害
ヲ受タルト甚シキニ至レバ遂ニフロルリト
稱スル形態ニ及ブフロルリトハ蠟燭ノ將ニ

滅セントシテ尚未^タ餘燭ヲ存スルガ如キヲ謂フ
此表態ニ及ブト雖^モ尚^モ朦朧タル水煙ヲ發シ其中
ニ於テ一方ヨリ一方ニ^ニ滑轉シテ水面ニ浮ビ或
ハ其噴水管ヲ膨脹シ或ハ之ヲ^ニ収縮シテ苦痛堪
ヘ難キ呼吸ヲ發シ竟ニ其體ヨリ幾度カ凝血ヲ
發シテ死ス其血色ハ赤葡萄酒ノ濁滓カト疑フ
ベシ其屍體ハ大山ノ水面ニ崩レタルカト訝ル
ベシ
鯨魚死スレバ其死體ヲ拽キテ本艇ニ歸リ先^ニ
ヲ舩舩ニ繫キ置キ或ハ綱具ノ滑車ヲ以テ之ヲ

懸ク速ニ之ヲ切截シテ其脂膏ヲ取り煎熬シテ
油ヲ沸キ出サシム若之ヲ切截スルヲ神速ナラ
ザレバ貪食ノ沙魚遠ク鯨血ノ香ヲ聞キ忽其死
体ノ四邊ニ群集シテ之ヲ食フ其數幾千尾ナル
ヲ知ラズ數時間ニシテ此大体ヲ食ヒ盡シ僅ニ
骸骨ヲ遺スノミ故ニ速ニ之ヲ切截シテ甲板上
ニ揚ダザルベカラズ之ヲ切截スル方法ハ鋏形
ノ器ヲ以テ頭部ト身トヲ分ツ已ニ分チ終レバ
滑車又索具ノ装置ヲ以テ頭部ヲ引キ揚ダルナ
リ此時(縛ヲ解キテ死骸ヲ棄テヨ)ト令スレバ始

メテ滑車又索具ノ用ヲ終ルト云フメルダイル曰
ク鯨頭ヲ切リテ其身皮ヲ剥ケバ白色ヲ顯ハシ
テ其閃光大理石製ノ墓塚ヨリ發スル輝燦ニ似
タリ又其体前ニ比スレバ稍塊量ヲ減ズレト尚
一高嶼ニ異ナラズ其死体縛ノ繫ク所ヲ脱シ徐
々ト流ニ任セテ船邊ヲ去ル片ハ夫ノ貪食ノ沙
魚之ニ近ツカント欲シテ波ヲ衝キテ来リ加フ
ルニ喧聲ノ水鳥空氣ヲ拂ヒ其邊ニ群集シテ之
ヲ啄ム其嘴鯨体一觸ル、片ハ短劍ヲ以テ之ヲ
刺スニ異ナラズ而メ此白色無頭ノ死体船邊ヲ

去ル_レ愈遠ケレバ沙魚水鳥ノ群集スル_レ益夥
 シ譬ハ其船邊ヲ去ル_レ一_{ロツト}尺_{夫名我}餘_{一丈六}
 至レハ沙魚ノ群集スル_レ一平方_ロ一_ロハ_我
 一_{及四}歩ノ地ヲ充タシ水鳥ノ群集スル_レ一立
 方_ロ一_ドノ地ヲ充タス其船邊ヲ去ル_レ二_{ロツト}
 一_{至レバ}沙魚ハ二平方_ロ一_ドヲ充タシ水鳥ハ
 二立方_ロ一_ドヲ充タス_{カ如シ此比例ヲ以テ群}
 集セバ其數忽夥多トナリテ其大体ヲ食ヒ盡ス
 モ亦速ナルベシ蓋本船ヨリ鳥魚群集ノ景况ヲ
 視レハ三時間乃至四時間ナレ_レ天色淡青ニシ

テ微風水面ヲ吹キ其光景頗清朗ナル_レハ其時
 間モ亦殊ニ速ナリト
 本船ニ鯨頭ヲ引キ揚グレバ其油ヲ取ルナリ其
 方法ハ先竈ニ火ヲ焚キ其火氣ヲ烈シクセン_レガ
 為ニ諸殘物ヲ投入ニ鋤手等銳米_テル大錢把ヲ
 以テ脂膏ノ塊ヲ捺リ熱重ニ入レ或ハ竈火ヲ攪
 シテ煙燄ノ竈口ニ發出スルヲ待ツ_レ既ニ煙燄ノ
 渦旋樣ニ捲キ出ヅルニ至レバ足ヲ以テ竈戸ヲ
 閉_ツ斯ノ如ク其脂膏ヲ煎熬シテ後之ヲ冷油器
 ニ移シ次テ桶ニ填メテ晴天微風ノ時ヲ待テ出

帆ノ装ヲナシテ本港ニ歸來シ暫ク鯨獵ヲ休息スルナリ

スベルンウールノ鯨種ハグリーンランド海ニハ産セザレド南緯六十度ヨリ北緯六十度マデノ間ニ於テハ各所ニ之ヲ漁シ得ベシニウグイニヤノ海岸及其邊ノ群島ニウホルランドミツチルスダローフニウゼールランド子ウイグートルアイスハ島イリスダローフメリウナルカリフルニヤ日本ブルシヤ支那モルカス等ノ海岸ハ此鯨種ニ富マザル所ナシ

一千七百九十一年ニ於テハ英國ノ鯨油ヲ得ル
 一千二百五十六噸ノ重量ニ當リ一千八百二
 十七年ノ運輸ハ五千五百五十二噸ノ重量ニ當
 リ一千八百三十六年ノ運輸ハ七百一噸ノ重量
 ニ當レリ尤來大鯨ハ頭部ヨリ十桶ノ油ヲ生ジ
 頭部以下ニテ四十桶ノ油ヲ生ズ但十桶ニ容ル
 、モノハ其重量殆一噸ニ當ルナリ鯨油并ニ鯨
 頭油ハ販賣ノ時價甚貴シト雖其裨益モ亦頗多
 シ然レド近年ニ至リテハ英國ノ人鯨獵ヲ事ト
 シテ巡海スルモノ甚寡ナク終ニ一千八百四十

五年ニ方リテ英國諸港ヨリ鯨獵船ノ出帆スル者一隻モ無シエム、ゴルロツクノ説ニ斯ノ如ク鯨獵ノ衰微セル源因ハ從來占メ得タル漁所ニ於テ鯨魚漸次ニ減少スルヲ以テ之ヲ獲ルノ難キニ起リ又漁獵事務局ヨリ鯨獵人ニ賞典ヲ施シテ其職業ヲ獎勵セシムルノ寡ナキニ基ツク、雖千八百二十四年マテハ此局ニテ人ニ鯨獵ヲ勤ムルノ法則ヲ設ケタレトモ當時ハ之ヲ廢シタ多クハ米人及ニウ、サウスウヱールスワンテイメンスランドノ殖民等互ニ競ヒテ其漁ヲ行ナラニ在リ實ニワン、デーメンスランドノ地勢

ハ鯨獵ヲ為ルニ最便宜ナルヲ以テ當今其事業甚盛ニシテ住民ノ生計多クハ鯨獵ニ基ツカザルハナシト一千八百四十一年ニ枚テ合衆國內ノ鯨獵船ヲ算スルニ其總數十九万三千噸ノ重量ナリ蓋當今ハ以前ニ比スレバ鯨魚稍減少スト雖其漁船ニ至リテハ其數以前ヨリモ稍増加セリ

鯨漁ノ緣起并ニ其進歩ヲ論ズ

北方ノ海岸ニ居ル所ノ國民ハ太古ヨリ鯨獵ヲ事トスルヲ以テ那威其他近傍ノ諸國ハ皆此事

ニ習フ一歐洲列國ノ率先タルノミナラス南部ノ諸國ニ此事業ヲ傳習セルモ專ラ此等ノ國民ニ頼レリナルマン人種始メテ其居ヲ占メタルベ
一ラフ、ピスケー曲海ノ名ノ海岸ハ住民勉メテ鯨獵ヲ為ルヲ以テ其地名頗ル世人ニ知ラレタリ往時此曲海ハ鯨魚ヲ産スル一甚多クシテ其獵法モ亦甚簡易ナレバ其住民始メテ鯨獵ヲ以テ一商法ト為ルニ足ルベキヲ發見セルニ至レリ其最
勉勵ンテ鯨獵ニ勞ヒシハ一千一百年ノ頃ヨリ一千三百年ノ間トリ一千二百六十一年ニ於テ

ハピスケーヨリバヨン子ニ輸入セル鯨舌ニ十分一ノ稅ヲ配當セリ當時鯨舌ハ食物トシテ大ニ人人賞翫スル所ナリ一千三百三十八年英王エドワード第三世命ヲ下シテ曰ク從來ビヤルリッ港ニ輸入セル鯨魚ヨリ一尾六磅ノ比例ヲ以テ課稅ヲ得タレドモ自今此稅ヲ以テペートル、デー、アヤン子ニ讓ルベシトペートル、デー、アヤン子ハ英王ヲ援ケシカ為先ニ艦隊ヲ出セシニ因リ其入費意外ニ多キヲ以テ今鯨稅ヲ讓リテ其償ヲ為ントスルノ志ナルベシ然レド爾後

終クモナクビスク1人モ亦鯨獵ヲ止ム鯨魚
氷海ヲ出テ南方ニ来ル1其寡ナキヲ以テナリ
英國ノ航海者サルホ1ウールローハイ等北洋ヲ
歴テ印度ニ達スル海路ヲ發明セシカ為遙ニ北
方ニ向ヒテ出帆セシカ不幸ニシテ其志願ヲ果
ス1能ハサレ氏鯨魚ノ住所ヲ發見セリ是ニ於
テ英國ノマスコウカムハニ1ト稱スル商社ヨ
リ英王ニ歎願シテ曰クスビツチ^上ベルゼンハ我社
員サルホ1ウールローハイノ發明セル地ナレバ
其近海ハ我社中ニ屬スル漁船ノ外ハ鯨獵ヲ為

シノザルノ權ヲ得ント英王之ヲ許シテ權書ヲ
與フレ氏實ハ是ヨリ先^キ一千五百九十六年ニ當
リ和蘭ノ首府アムステルダムノ航海商人バレ
^ズット云ヘル者此地ヲ發明セルヲ以テ和蘭人
ハ固ヨリ論ナク西班牙佛蘭西等ノ人ト雖亦英
人專獵ノ權ヲ掌握スルヲ以テ條理ニ當ラスト
ス然ルニ英人ハ強ヒテ此權ヲ掌握セントスル
ニ因リテ終ニ北洋中ニ於テ互ニ干戈ヲ交フル
ニ至レリマスコウカムハニ^上見ニハ堅牢ナル
軍艦六七隻ヲ擇ビテスビツチ^上ベルゼンニ遣リ以

テ外國漁船ノ此ニ来リテ鯨獵ヲ為ル者アラハ
直ニ之ヲ却ケ或ハ稅トシテ其得ル所ノ半ヲ分
取セントスレモ外國漁船ハ英人ノ所望ニ從ハ
ザルヲ以テ止ムトヲ得ス攻撃ヲ始メ盡此等ノ
漁船ヲ追ヒ散ステ至レリ爾後一尾ノ鯨魚モ外
國人ニ漁セシメザランガ為ニ海中ヲ徘徊シテ
蔽シク監守セリ故ニ歐洲列國公使ヲ以テ剩シ
ノ其所為不當ニ出ルヲ論シタリ然レモ和蘭ハ
和議ヲ欲セズ速ニ精練ノ艦隊ヲ出シテ其國領
ノ鯨獵所ヲ恢復セントスルニ因リ遂ニ一千六

百十八年一カトリテ巨ニ大戦争ヲ開キ其結局英
人ノ敗績トナリタリ是ヨリ英國ノマスコウカ
ムバニールハスピペルゼンノ曲海并ニ其近海ヲ
二分シテ其一ハ和蘭國領ノ漁獵所ト定メ彼我
相和シテ鯨漁ヲ為ルニ若カスト云フ議ヲ發シ
和蘭漁社ニ和睦ヲ請フニ至レリ故ニ爾後和蘭
人ハ鯨獵ヲ為ルニ益盛ニシテ一千六百八十年
ニ於テハ漁船ノ數二百六十隻漁ノ一万四千負
ヲ以テ數フルニ至レリ而メ一千六百九十七年
ニハ漁船百八十隻ヲ以テ一浦ヨリ一千九百五

十九尾ヲ捕ヘタリ英人ハ此勢ニ懸セラレテ漸
鯨源ヲ怠リ遂ニマスカウカムパニ社ヲ解ク
ニ至レリ
マスカウカムパニノ解社後一千七百二十五
年ニ當リテグリーンランドカムパニト稱ス
ル一社起リ四万五千磅ノ財本ヲ以テ鯨獵ノ商
法ヲ開キタレニ爾後八年ノ間大ナル損亡ニ罹
リテ遂ニ其翌年解社スルニ至レリ此時ニ當リ
英國ノ議事官新法ヲ設立シテ鯨獵ヲ勸勵セン
ト欲シ一千七百三十七年一ノ法則ヲ設立シテ

曰ク自今ニ百噸積以上ノ鯨獵船ニハ出帆ノ時
一噸三十シリングノ比例ヲ以テ賞金ヲ與フ
ベシト一千七百四十九年其定額ヲ増加シテ一
噸四十シリングトセリ此時ニ當リテ半ハ賞
金ヲ受ケ半ハ鯨魚ヲ捕ヘンガ為ニ其漁船ノ裝
國海岸ヲ出帆スルヲ甚多シ然レ正或人ノ説ニ
斯ノ如ク賞金ヲ目的トシテ勉勵スル商法ハ長
ク連續スルモノニアラス長ク連續スル商法ハ
必其實物ノ價ヨリ得ル所ノ多キニ頼ルト云ヘ
リ現今鯨獵ノ景況甚衰微セルヲ視レバ果シテ

百八十八頁
原典
註

此言ノ的切ナルヲ知ルベシ一千七百七十七年
 ニ於テ恩賞ノ定額稍減少シ一噸三十シルリン
 グノ比例ト為レリ故ニ爾後五年間ハ鯨獵船ノ
 出帆スルノ漸々減少シテ遂ニ三十九隻ニ至レ
 リ一千七百八十一年ニ方リ又以前ノ定額ニ復
 シ鯨獵ノ勢再興シテ一千七百九十五年ニ至リ
 漸々大トナレリ是ニ於テ該事官等以為鯨獵ノ
 勢當時ノ如クナラバ假令賞金ヲ減少スルモ害
 ナカルベシト其數ヲ二十シルリント為リ蓋
 へトトルヘトドノ港灣ヨリ出帆スル鯨獵船ノ

數ヲ擧グハニ此港灣ヨリ鯨獵船ヲ出セルハ一
 千七百八十八年以來ニシテ爾後十四年間ハ毎
 秋一隻ヲ増ケツルヲナシ而シテ初ハ年間ハ鯨魚
 ノ捕ヘテ歸帆スルノ僅ニ六尾ニ過ヤザレト一
 千七百九十八年ニ至リテハ稍遠ク巡海セルヲ
 以テ十一尾ヲ捕ヘタリ爾後多年ノ間此港灣ヨ
 リ出帆セル鯨獵船甚多クシテ一千八百五十二
 年ニハ二十二隻一千八百五十五年ニハ一十七
 隻一千八百五十六年ニハ二十八隻一千八百五
 十七年ニハ三十隻ニ至レリ然レモ其内多少海

豹ノ獵ニ係ルモノアリ一千八百五十七年ニ出帆セル船隊ニ積ム所ノ漁具食糧等ハ一萬六千五十磅ノ直ニ當レリ其後佛國ノ大乱以來歐洲列國々々其害ヲ蒙ルヲ以テ鯨獵大ニ衰へ就中和蘭ノ如キハ殆^レ鯨獵ヲ廢スルニ至レリ然レ^レ獨英國ハ其間益其獵ヲ盛大ナラシメタリ此時鯨獵船ニ賞金ヲ與フルハ甚^ク寡ナケレ^レ氏猶^ホ之ガ為ニ鯨獵ノ勢ヲ維持セリ一千八百二十四年ニ方リ此法ヲ廢シテ後ハ鯨獵ノ景况漸々ニ衰微スト云フ

グウスストレット 海峽ノ名 鯨獵ヲ論ス

世ニ有名ノ鯨獵人ケヒテインペニーノ説ニ現今グウスストレットニ於テ鯨獵ノ景况衰微セル所以ハ鯨魚ノ漸次ニ欠乏スルニ由ルト雖多クハ鯨魚ノ巢窟ヲ知ラザルニ基ツクナリ往時此海岸ニ於テ北緯六十二度三十分、經線六十九度ノ位地及ハドソンストレット 海峽ノ名 ノ入口ニ當レル位地ハ大ニ鯨魚ニ屬ミタレトモ其獵船ノ盛ニ雜集スルヲ以テ鯨魚遂ニ此邊ヲ脱去シテ東南ノ港灣ニ移リ緯線六十九度、經線六十九度

ノ位地ヲ以テ巢窟ト為リ然レ氏鯨獵船又此ニ
輻湊スルヲ前ニ異ナラサレバ鯨魚復此所ヲ棄
テ北海ノ港灣ニ移リ緯線七十一度ヨリ七十二
度ノ間、經線五十度ノ位地ヲ占ム蓋此位地ハダ
ウイス、ストレートノ東方ニ當リテ鯨魚ノ常ニ游
行スル限界ノ緯度ナリ然レモ近年鯨獵船ノ々
ウイス、ストレートニ到ルヲ甚寡ナキヲ以テ鯨魚
モ亦舊ノ巢窟ニ歸來ヒントセリ通例右等ノ獵
所ニ鯨獵船ヲ廻ラスハ四月中旬ヨリ六月四日
頃マテヲ限トス此時尚、堅氷ノ海岸ヲ掩フヲ以

テ其獵船ヲ進ムルニ「ト」ラッキンダ及「ウ」ルピシダ
ノ方法ヲ施シテカナリ「アイ」ランドヨリハ「ウ」
「ンド」ペーノ港名ニ至リテ鯨獵ヲナス「ト」ラッキンダ
トハ水手、水面ヲ歩シテ船ヲ找クヲ謂ヒ「ウ」アルヒ
ンダトハ船ヲ距ルヲ方數百「ヲ」ソムニ當リテ水
ノ厚キ所ヲ擇ビ「アイ」ス、アンコルト解スル一種
ノ錨ヲ置キ水手、錨索ヲ挽キテ其船ヲ錨ノ方ニ
進マシムルヲ謂フ此港灣ニ於テハ六月下旬ヨ
リ八月上旬マテ鯨魚氷ノ縁端ニ沿ヒテ游行ス
ルガ故ニ大ニ鯨獵ヲナシ易ケレモ稍、此時期ヲ

百科全書
鯨魚
天
大
部
自

過クレハ鯨魚皆暖氣ノ為ニ氷ノ捲ハサル海口
ヲ尋子テ巢窟トナス蓋此海口ニハ鯨獵船ノ違
シ難キヲ以テ恣ナク游行スルヲ得レバナリ但
其海濱ニハ亦イスタイモウ人種ノ最暴烈ナル者
住居シテ鯨獵ヲナス然レモ常ニ二三尾ヲ獲ル
ニ過ギズ

西南ノ海風吹カズシテダウイスストレートニ氷
ノ凝結スル片ハ鯨獵船ノ進行シ難キヲ以テ漁
獵甚乏シ故ニ暫獵船ヲ止メ戶鯨魚ノ再南方ニ
来ルヲ待チ九月一日ヨリ鯨獵ヲ始メ十月十日

ニ至リテ止ム又此時節ヲ過ダレバカムブルラ
ントサウント海峽及フロロビシヤルスストレート
ノ海峽ノ深凹ナル海口ニ入りテ仔ヲ産ス蓋此等
ノ處ハ數千ノ島嶼群列シテ其間屢々ニ洲渚アリ
リ加フルニ水流極メテ急激ナリ故ニ鯨魚ノ住
スルニハ最要害ノ巢窟タリ此海口ニハ無數ノ
鯨魚跳舞ノ形状ヲナシテ互ニ遊戯スルガ如シ
長六十五フート幅三十フート尾ノ幅二十八フ
ートノ巨鯨ト雖雖魚ノ如ク水面ニ飛跳シテ高
ク水煙ヲ揚グ此時ニ當リテ之ヲ捕ヘンガ為メニ

其近連ニ到ルニハ最注意セザル可カラズ
 グリトランドト見上ニ鯨ノ景況ハ二十年以來
 漸々ニ衰微シテ間豊穢ノトアリ然レモ其巢窟
 獵船ノ為ニ攪擾セラル、ヲ以テ終ニグールド
 グリーランドトハスエッナルセンノバセム
 ラノ海ヲ歴テ北海ニ移ル而モ英國ノ漁人又螺
 旋装ノ漁船ヲ以テノバセムブラノ海程ヲ傳
 大平洋ノ諸入口ニ達シ未獵事ヲ試ミザル位地
 ヲリ大ニ鯨魚ヲ獲テ歸國セシトアリ但ダグリー
 ンランド鯨種ノ獵法ハ既ニ記スル所ノススル

△グリーランド種鯨法ト異ナラサレバ爰ニ贅セス
 英國ノ鯨船ニ横ヲ歸レル中ニ未嘗有ノ重
 量ノ一、百十四年ニ方リバートルヘードノ
 港灣、ヲ出帆セルレソルシヨシ船ノ總長サウ
 トル氏ノクビツブルセンニテ獲タル鯨魚ナリ其
 數四ト四尾ニ下ラマシテ油ヲ得ルト二百九十
 九噸、重量ニ當ル蓋一噸ノ直三十二磅ノ時價
 ナレバ當年最騰スル所ノ油ハ九千五百六十八
 磅ノ直ニ當ル加フルニ鯨鬚ノ直ト政府ノ賞金
 トヲ以テセバ一萬一千磅ニ至ルベシ又鯨魚ノ

甚寡ナキ片ハ鯨油ノ直モ亦徒ヒテ騰貴シ其重
量一噸ニテ六十磅テ當ル故ニ假令小荷ニテモ
一万磅余ヲ得ルニ至ル一千八百十三年ニ方リ
スコルスバイ父子ハ各一万一千磅ノ直ニ當レ
ル鯨荷ノ積ミテ歸來セシトアリ就中父ハ鯨獵
ノ為ニ海路ヲ采往スルイニ十八次ニシテ常ニ
鯨魚ヲ得ルト四百九十八尾ニ下ラズ而メ油ト
鬚トノ直ヲ合算スレキハ十五万磅余ニ當ル又
コルスバイイ以来ケビテーンペンニト云ヘル
者常ニ鯨獵所ニ於テ冬ヲ踰エテ大ニ鯨魚ヲ捕

ルヲ發明シ一千八百五十三年及一千八百五十
四年ニ當リテラデオフランクリンフデーツヒ
ヤト稱スルニ隻ノ獵船ヲ以テ鯨魚四十尾海豹
六千頭ヲ獲テ歸ル其荷ノ直ヲ合算スレバ二万
磅ニ下ラズ
商費ノ所謂鯨油ノ一噸ハ酒升二百五十二ガ
ロン^ガ升^カ五^ロ合^ニ五^ハ當^ルニ當リテ其價大ニ高低ア
リ鯨鬚ノ如キハ其益多キヲ鯨油ニ次ダ者ニシ
テ尋常一椀ノ^グリ^ーン^ラン^ト鯨種ノロヨリ取
ル所ナリケビテーンスコルスバイノ説ニ鯨鬚

百利
魚類
主

大抵グリランド名ヨリ輸入スル者ニシ
 テ其新鮮ナルヲ直下ニ鯨口ヨリ取離セルガ如
 シ而メ輸入スレバ全ク清潔ニシテ之ヲ市場ニ
 出ス其價ニ至リテハ近來頻ニ高低アリト云フ
 ハートルヘードノミッセル、ラウレレスノ著述セ
 ル漁獵書ニ英人ノ近來グリーンランド及
 ス、ストリートノニ海ニ於テ鯨魚ト海豹トヲ捕
 ハタル數ヲ統計セシメアリ左ニ其大畧ヲ掲グ
 一千八百四十九年ヨリ一千八百五十六年マデ
 八年ノ間英國港灣ヨリ出帆シテ海豹及鯨魚ヲ

捕ヘタル數并ニ鯨油鯨鬚ヲ得タル量ヲ算スル
 ニ左ノ如シ

各所獵船	百七十八	鯨魚	二千四百甲	九千七百	五十七万七
ヘートルヘードノ獵船	尾	六クウト	噸	千百十七頭	
フラセルアイノ獵船	一十尾	三十クウト	七百四十噸	五万二千	
パンアノ獵船	一十尾	三十一クウト	三噸	八百五頭	
獵船	一十尾	クウト	五十七噸	七千四百	
				四十五頭	

アベルグーン	ノ 獵船	ダンデー	ノ 獵船	キルカガ	ノ 獵船	ボ子スノ	獵船	ホルノ	獵船
一百五十	七尾	二百四十	八尾	百四十九	尾	三十尾	七尾	七尾	七尾
一千六百零	七クウト	三千三百七十	六クウト	千六百七十	三クウト	五百二十五	一クウト	二千三百二十	一クウト
一千五百	噸	二千四百八十	六噸	一千三百六	十八噸	四百二十七	十四噸	三千一百三	十四噸
二万〇三百一	十六頭	一千六百九	十頭	九千〇	五頭	九千〇	千九百十四頭	一十一万七	千九百十四頭

一千八百四十九年ヨリ一千八百五十六年マテ
 八年ノ間上文ニ記スル所ノ地方ニ於テ鯨魚及
 海豹ヨリ得ル所ノ金額ヲ算スルニ次表ノ如シ

合計	九千四百	一万九千四	七十九万五千
	九十尾	九クウト	百〇九噸
地名	一千八百四十九年	金額	
	ペートルヘード	三万一千五百	磅
	フラセルグー	三万一千五百	磅
	パンア	三万一千五百	磅

一ノ半ノ事 頁ノ下 一ノ下ノ目

アベルデー	九千。十三磅
ダンデー	三万。九百九十八磅
キルクアルデー	一万。二百二十九磅
ボ子ス	五千七百四十七磅
ホル	一万七千一百。七磅
合計十六萬七千四百九十四磅	
一千八百五十年	
ペートルヘード	四万九千五百六十二磅
フラセルブ	四万九千五百六十二磅
パンブ	四万九千五百六十二磅

アベルデー	三千百九十二磅
ダンデー	一万三千四百。四磅
キルクアルデー	一千八百六十四磅
ボ子ス	五百七十四磅
ホル	一萬四千。三十八磅
合計十八万七千七百五十八磅	
一千八百五十一年	
ヘートルヘード	四万六千二百六十一磅
フラセルブ	四万六千二百六十一磅
パンブ	四万六千二百六十一磅

アベルグリン	四千四百九十八
ダンデー	一万三千六百七十五
キルクカルデー	五百八十八
ボ子ス	四千九百四十七
ホル	二万四千三百四十三
合計十八万六千五百三十四	
一千八百五十二年	
ペートルヘード	五万。六百七十八
フゼルカ	五千一百五十三
パンブ	六千六百九十二

アベルグリン	五百一十五
ダンデー	四千二百四十四
キルクカルデー	二千。九十八
ボ子ス	一万三千六百三十五
ホル	二万六千七百九十
合計十万八千八百。五	
一千八百五十三年	
ペートルヘード	六万四千九百八十
フゼルカ	七千一百四十七
パンブ	一千四百十八

アベルデーオン	六千二百四十四
タンデー	一万一千七百五十三
キルクカルデー	七千九百七十八
ボ子ス	三千五百二十七
ホル	二万。四百四十四
合計十二万三千四百八十一	
一千八百五十四年	
ペートルヘード	三万一千七百三十三
フラセルブー	五千八百六十一
パンブ	一千。七

アベルデーオン	一万八千四百九十五
ダンデー	六千四百。六
キルクカルデー	六千五百。四
ボ子ス	一千二百九十四
ホル	一万。五百五十七
合計八万一千八百五十六	
一千八百五十五年	
ペートルヘード	十二万五千三百三十
フラセルブー	一万三千六百三十五
パンブ	五百八十

アベルデー	七千九百。〇。磅
ダンデー	二千四百二十九磅
キルクタルデー	八千。二十六磅
ボ子ス	八百。〇。磅
ホル	八千五百九十。磅
合計十六万六千三百二十。磅	
一千八百五十六年	
ペートルヘッド	七万七千五百六十。磅
フラセルグリー	七千七百二十七磅
パンゴ	七千七百二十七磅

アベルデー	二万六千。七十二磅
ダンデー	三万二千九百八十磅
キルクタルデー	二万六千。四十八磅
ボ子ス	二万六千。四十八磅
ホル	二万八千六百六十七磅
合計十三万一千八百二十九磅	
上表ノ八年間ヲ統計スレバ下表ノ如シ	
ペートルヘッド	四十七万七千五百三十三磅
フラセルグリー	十六万五千七百四十六磅
パンゴ	十四万四千六百五十七磅

アベルデー	七万五千九百二十八磅
ダンデー	十一万四千八百八十磅
キルクカルデー	六万三千二百二十五磅
ボ子ス	五万五千五百六十二磅
ホル	十五万。五百三十三磅
統計	百二十四万八千。七十七磅

米國ノ人民ハ漁獵ノ事ニ勉勵スルノ性質アル
 下ヲ證セシガ為。今其國人ノ北海ニ於テ鯨獵
 スル景況ヲ説示セン其説ハ米國海軍總宰ノ述
 ブル所ニ基ツク

一千八百四十八年ノ夏ニ當リザッベリオルト云
 フ鯨獵船ノ船長ロイスト云ヘル者ベリングス
 ストレート海峡ノ名ヲ歴テ北海ニ到ル其途中屢甚
 シキ危難ニ遇ヘ厄歎ク之ヲ避ケテ遂ニ數週間
 ニ滿船ノ鯨油ヲ得テ歸來セリ是ヨリ北海ノ鯨
 魚ニ富ムト普ク國中ニ聞ユ有志ノ輩ハ競ヒテ
 鯨獵船ヲ集ムルガ故ニ遂ニ其數一百五十四隻
 ニ至レリ但一隻ノ直辦備ノ雜費ヲ合セテ凡ソ三
 万ドルラルニ下ラズ其乘船ノ獵人ハ一隻三十
 員ニシテ極メテ勇敢ノ者ヲ要セリ一千八百四

十九年ニ方リロイス上ノ如キ船隊ヲ帥非テ北
 海ニ赴キタリ百五十四隻ノ船隊ノ外此時鯨魚
 ヲ捕ヘテ其油ヲ得ル一二十万六千八百五十八
 ルレルノ外量ニシテ其鬚ヲ得ル一二百四十八万
 一千六百磅ノ重量ニ當ル一千八百五十年ノ夏
 ニ當リ一百五十四隻ニテ編制セル鯨獵船ノ列
 隊ヲ出セリ其船ノ直并ニ乗船人數ハ前年ト異
 ナラズ此時ハ出灣以來僅ニ數週間ニシテ鯨油
 ヲ得ル一二十四万三千六百八十レルレルレナリ
 而鯨鬚ヲ獲ル一三百六十五万四千磅ノ重量ニ

當ル右二年間ノ鯨獵乗船人數并ニ船價等ヲ算
 スルニ一千八百四十九年ハ乗船人數合セテ四
 千六百五十員ニシテロイスノ船隊ノ人數ヲ合シテ算
 スル所ナリロイスノ船ヲ除ク船價并ニ辨備ノ
 費ハ四千六百二十員ニ當ル船價并ニ辨備ノ
 雜費四百六十五万ドルナリ而メ得ル所ノ
 鯨油ノ價二百六十万六千五百十ドルラ一ル一シ
 テ鯨鬚ノ價八十一万四千百十二ドルラ一ル一ニ當
 ル右ノ價ヲ合スレバ八百七万六千六百二十二ドル
 ラルナリ一千八百五十年ハ乗船人數四千三百
 二十員ニシテ船價并ニ辨備ノ雜費四百三十二

万ドルヲルナリ而メ得ル所ノ鯨油ノ價三百七
十六万一千二百一ドルヲルニシテ鯨鬚ノ價一
百二十六万六千三百一十ドルナリ右ノ價ヲ合
スレバ九百三十四万一千八百三十一ドルナル
ナリ右二年ノ総數ト人真トヲ合スレバ獵船ハ
二百九十九隻一ロイヌ如ク船ニシテ其人員ハ八千
九百七十名ナリ而メ獵船并ニ荷物鯨油鯨鬚并
ニ辦備ノ諸
品ヲノ價二年各ヲ合算スレバ一千七百四十一
万二千四百五十三ドルナルナリ

海豹ヲ捕ル事

海豹ヲ捕ルニ用井ル所ノ船ハ他ノ捕魚ニ供シ
難シ往時海豹ヲ捕ルハ遊戯ノ為ニシテ之ヲ捕
ヘテ商品トセルハ一千八百五年ヲ以テ始トス
當時ロベルト稱スル鯨獵船ノ船長ゼーリー
ト云ヘル者鯨魚七尾ト海豹百八十頭トヲ捕ヘ
テ歸國シ高價ヲ以テ販賣セリ是ヨリ海豹ヲ捕
ルト甚盛ニシテ遂ニ現今ハ之ヲ捕ルノ數舉ゲ
テ數フベカラス通例一船ニテ二千頭乃至五千
頭ヲ積ミテ歸來シ甚シキニ至リテハ一万五千
頭ヲ得ルモノ間之アリ

海豹ヲ捕ルハ大抵二月二十五日頃出帆シテテ
レルウツク島ニ到リ五月五日頃マデハ此島ニ
滞留シテ海豹ヲ捕フ蓋グリーランド海ハ頗
海豹ニ富ムト雖其主タル巢窟ハスビツブルゼ
ンニ在リ此邊ニテハ海豹群集シテ或ハ水上ニ
戯レ或ハ陸地ニ遊ブヲ見ル海豹ヲ捕ルニ鎗ヲ
以テスルハ容易ク其体ニ傷害ヲ受クルト雖
其生氣甚絶ニ難シ皮ヲ剥ギテ後始メテ死スル
モノ間之アリ総テ人々海豹ヲ賣ブ所以ハ其皮
ノ美麗珍奇ナルト脂膏アルトヲ以テナリ其脂

膏ハ先生肉ヲ小片ニ切截シテ大桶ニ填メ歸國
シテ後之ヲ煎熬シテ油ヲ製スルナリ

油用ノ雜魚

油ヲ製スル魚類中ニ於テ鯨魚及海豹ニ種ノ浮
ハ浮龜ニ如クモノナシ英國ノ海岸ハ本ニ此浮
龜ヲ産スルノ地位ニシテ其肝臟一箇ニ付キ三
十磅余ノ直ニ當ル蓋其油ヲ含蓄スルヲ以テナ
リ鯨魚油ハ當今醫藥上ニ於テオレユムゼユリ
ニアセリト稱スル者ニシテ其製法ハ微火ニ
テ鯨魚肝ヲ温メ其油ノ生ズルニ及ヒテ燻キヲ

子ルノ小片ヲ以テ其油ヲ濃過ス之ヲ上等品ト
ス斯ノ如クスル片ハ其質全ク純粹ニシテ更ニ
臭氣ナク其外見宛然水晶ノ如シ而ノ其油ノ温
氣ヲ含ムヲ寒暖計六十四度ニ至ル片ハ其重量
九分ニ厘餘トス蓋水ノ重量ヲ一匁トシテ比例
スル所ナリ鯊油ヲ以テ藥品トセンハ一千七百
八十二年ニ方リドクトルマルシバルト云ヘル
右醫リウマチス症ノ長病ニ施シテ其効驗アリ
シヨリ始マリテ其後稍中絶スレド一千八百七
十年ニ至リテドクトルバルトスレト云ヘル有

名ノ醫師又之ヲ再興セリ現今ニ至リテハ益感
ニシテ長病ニハ其症如何ヲ論ゼズ皆之ヲ施ス
ト雖就中關節及筋骨ニ療瘥症ヲ發シ或ハ肺臟
ニ勞症ヲ醸ス者ニ最効驗アリトス英國龍動病
院ニ於テ勞症ノ患者ニ鯊油ヲ施シテ其功效ヲ
試験セシニ患者百人ニ付キ八十人ハ此藥ニ由
リテ平癒スト云フ鯊肝油モ亦藥品ニ供シテ其
益多シ

源獵補下條

清水世信 校